定例教育委員会会議録

(令和3年10月7日開催)

岡谷市教育委員会

定 例 教 育 委 員 会【議 事 録】

日 時 令和3年10月7日(木)
9時30分～

場 所 岡谷東部中学校管理教室棟2階 学習室
署名委員 小平委員、草間職務代理者

【 次 第 】

○ 開 会

○ 教育長報告

○ 議 題

1. 令和3年度全国学力・学習状況調査結果について【資料 No.1】 (教育総務課)
2. 通学路の安全対策について【資料 No.2】 (教育総務課)

○ 報 告

1. 岡谷市教育委員会点検・評価報告書【資料 No.3】 (各課)
2. 令和3年度成人式について (生涯学習課)
3. 令和3年度「子ども・若者育成支援強調月間」における街頭啓発の代替案について (生涯学習課)
4. 令和3年9月定例会の議案について (各課)

○ そ の 他

- ・行事等について (各課)
- ・その他

※定例教育委員会終了後、岡谷東部中学校管理教室棟1階 応接室にて教育委員協議会を開催します。

【次回開催予定】11月8日(月)9時30分～ 岡谷市役所2階 202会議室

出席委員

教育長 岩本 博行、職務代理者 草間 吉幸、教育委員 太田 博久、教育委員 高木 千奈美、
教育委員 藤森 一俊、教育委員 小平 陽子

事務局(説明員)

教育部長 白上 淳、教育総務課長 両角 秀孝、教育総務課主任指導主事 濱 敦志、
生涯学習課長 伊藤 恵、スポーツ振興課長 小松 隆広、教育総務課教育企画主幹 伊藤 清和、
教育総務課学校教育主幹 横内 哲郎、教育総務課主査 新村 尚志

<会議録>

○開 会

岩本教育長： 今日新しくなった東部中学校をお借りして、定例教育委員会を行いたいと思います。学校の教室で定例教育委員会を行うのは初めてだと思います。子どもたちの想いをしっかり受け止めて、良い定例教育委員会にしたいと思います。

それでは、ただ今より、定例教育委員会をはじめます。はじめに、本日の署名委員は小平委員と草間職務代理者をお願いしたいと思います。

○教育長報告

岩本教育長： 10月に入り、秋らしい晴天が続いておりますが、夜になるとぐっと冷え込み、紅葉が楽しみな季節となりました。この時期は寒暖の差が激しい時期でもありますので、委員の皆さんも体調を崩さないよう気を付けましょう。

私より何点か報告させていただきます。

●8月大雨による災害及び新型コロナウイルスへの対応について

はじめに災害への対応につきまして、市内に甚大な被害をもたらした8月の大雨による災害ですが、9月中に土石流のあった川岸駅周辺の被災箇所への応急復旧工事が完了し、9月30日正午をもって、同地区に出されていた避難指示が解除され、川岸公民館の避難所も閉鎖となりました。

これに合わせ、市の災害対策本部も解散となり、今後は警戒対策本部として、降雨時の警戒などを続けてまいります。

長らくご心配をおかけしてまいりましたが、ひとつの節目を迎えることができ、安堵しております。

次に、新型コロナウイルスへの対応ですが、第5波とされる感染の拡がりには国内、県内、諏訪地域内の状況にも落ち着きが見られるようになり、県独自の警戒レベルも9月30日から諏訪地域全体がレベル2に下げられております。

その後も感染者が確認されておりますので、気を緩めてはいけません。引き続き、基本的な感染防止対策を徹底して、秋の修学旅行や学校行事などに取り組んでいきたいと思っております。

また、ワクチン接種については、希望する市民の皆さんへの接種が進んでおります。10月1日（金）の夕方には岡谷市民病院を会場にして12歳以上の子供と保護者が一緒に接種できる親子接種を実施していただきました。

子ども達の大切な命と健康を守るため、限りあるワクチンを優先的に配分していただけたことに感謝しております。

次に学校行事について、秋といえば文化祭の時期であります。中学校の文化祭が北部中学校は10月1日と2日の2日間、その他の3校

岩本教育長：

は10月1日の金曜日に開催されました。今年も感染症対策のため、全校とも一般公開は行わず、保護者、家族のみの公開となりました。例年とは違う日程となりましたが、各校とも工夫を凝らして、学習成果の発表や体育祭など活気のある文化祭になったと思います。

●特別企画展「翠川 昭久と11人の彫刻家」について

生涯学習課の美術考古館からは、9月27日(月)から11月14日(日)まで、特別企画展「翠川 昭久と11人の彫刻家」を開催いたします。

翠川 昭久 氏は下諏訪町出身の彫刻家で教職のかたわら、郷土を拠点に制作を続け、指導者としても多くの彫刻家を育成しました。

長野県展や諏訪展、岡谷展などで受賞を重ね、審査員を歴任したほか、岡谷市美術会・諏訪美術会の彫刻講習会で長年にわたって講師を務めました。また、1991年より94年まで、岡谷蚕糸博物館・岡谷美術考古館館長に就任し、幅広く地域の芸術文化発展に寄与しました。

没後5年を記念した本展では、翠川の作品とともに、教え子で現在活躍中の彫刻家11人の作品を展示し、翠川の生涯と、郷土の美術界における功績を振り返ります。

●岡谷市読書サークル協議会による「本のリサイクル事業」について

次に図書館からになります。

岡谷図書館では、読書の秋に、本に親しんでいただくとともに資源の有効活用を図ることを目的に9月26日(日)に、岡谷市読書サークル協議会による「本のリサイクル事業」が行われました。

この事業は岡谷図書館において「除籍」となった約6千冊の本を岡谷市読書サークル協議会が買い取り、人と書籍を結ぶ機会になるよう、毎年9月に実施しているところでございます。

本を持ち帰る際には、お志をいただいております、収益は協議会の活動資金にしているとのことでございます。

読みたい本が見つかり、新たな本との出会いにもつながるなど、多くの方に喜んでいただけたのではないかと考えております。

気軽に外出できない日々が続く中、読書は新しい考え方や知識にも出会えます。

コロナ禍でもできる「読書」に注目いただき、岡谷図書館や3公民館図書室にあるたくさんのお本もご活用いただければと思っております。

私からは以上であります。

ただいまの報告について、ご質問等がありますでしょうか。

それでは、本日の議題に入ります。

議題の1としまして、「令和3年度全国学力・学習状況調査結果について」を議題といたします。事務局から説明をお願いします。

○議 題

1. 令和3年度全国学力・学習状況調査結果について（教育総務課）

＜資料1に基づき、事務局より説明＞

岩本教育長： ありがとうございます。それでは、皆さんからご意見をお伺いしたいと思えます。

高木教育委員： 資料No.1-②の「岡谷の子のよいところ」に「地域や社会をよくするために何をすべきか考えている」というのがありますが、該当が小学校のみとなっています。残念ながらここに中学校という文字がなく、それはなぜなんだろうと思えました。中学生になると、地域や社会のために何をすべきかを考える子どもが減ってしまうのか、小学生の時にあったそういう意欲が中学生になると減ってくるのか、これが何を意味しているのかが気になりましたので、質問させていただきました。

事務局（瀨）： 地域や社会を良くするために考えているというのは小学校のみと挙げており、実際に回答結果から優位にこのように考察できるのは小学生だけだったので中学生は取り上げられなかったのですが、総合的な学習の時間のあり方について、中学校でもいろいろな工夫をしながら取り組んでおります。例えば、学級単位で総合的な学習をしていた学校がさらに充実した内容に深めていこうということで、講座別にした学校もあります。逆に、講座別にしていたものを学級で、生徒同士の繋がりを大切にしながら、深めていきたいと考え、学級総合にした学校もございます。

いろいろ模索しながら、総合的な学習の時間に取り組んでいるところですが、どちらかという、小学校の方が学級単位で、地域の中に入り込んでいく学習を進めやすいという状況があり、そういった取り組みによる差が出てくるのだと思えます。中学校の場合はスライドで授業が動いていくので、学級単位で動くというのが少し難しい状況にあるのですが、中学校でも今、岡谷スタンダードカリキュラムの実践に向けて、工夫した取り組みを進めておりますので、その点をご理解いただければと思えます。

草間職務代理者： 資料No.1-②の「岡谷の子の課題」の左下に家庭での1日当たりの学習時間が中学校だけとなっていて、小学校が出ていません。おそらく小学校は全国平均ぐらいの家庭学習時間で、中学校は全国に比べて、家庭学習時間が少なかったということですか。

高木教育委員： それに付け加えてお聞きしたいのですが、この家庭学習の時間というのは学校から帰った後の時間ですか。家庭の中だけでなく、塾などのそういった時間も含まれていますか。

事務局（瀨）： はい。家庭学習の時間については、設問に塾や家庭教師による時間を含まないとなっていますので、自宅に帰って、自分で取り組む学習の時間になるかと思います。

小学生の場合は全国平均と比べて、若干学習時間が短いという傾向が見られるのですが、中学生の方がその傾向が強かったので掲載したということになりますので、そのようにご理解いただきたいと思います。

太田教育委員： 詳しいことはご報告いただいた内容からしか分からないので、捉え方が表面的かもしれませんが、ここ最近はずごく学力向上に力を入れてきているような授業改善をしていると感じております。調査結果からも毎年、小学校は学力改善の効果が出ている一方で、それがなかなか中学校まで繋がっていかないというように見えてしまうのは確かにあって、それについては非常に残念であり、そこが大きな一つの課題であるように見えてしまう。もちろん、詳細はわかりませんが。そうした時に、例えば、この調査はもう何年か実施されてきていて、小学校6年生の時にこの学力調査を経験した子どもたちが中学校3年でもう一度、中学生として経験されていると思うのですが、その辺の比較はされているのでしょうか。

事務局（瀨）： 明確に数字でお示しすることはできませんが、経年で小学校の平均正答率を見て、現在、令和3年度の中学3年生は平成30年度に小学6年生として、学力状況調査を受けておりますので、その比較についても、校長会や学力向上推進委員会でお示ししております。

また、校長先生方にも小学校6年生の時点でこういう状況であり、現状はどうなのかということも比較しながら、今後の学力向上について、検討しているところです。

太田教育委員： 今までの結果を聞いていると小学校では間違いなく、学力が少しずつ上がってきているのを実感していますので、ぜひその成果を中学校に繋げていただけるようにお願いします。

事務局（瀨）： 先ほど、小中学校における学びの連携の推進についてお話させていただきましたが、小学校の先生方には中学校の生徒の授業の様子を参観してもらい、逆に中学校の先生方には小学校に行って、児童の授業の様子を参観して、お互いの学習状況を把握し、それから今小学生が課題としていることに対して、中学生になったら、どのように取り組んでいけばよいのかという視点を持ちながら、熟議して進めて下さっていますので、こちらからも工夫しながら取り組んでいただくようお願いしたいと思っております。

それからあと1点、訂正させていただいてよろしいでしょうか。

先ほど、高木教育委員さんから質問のありました学習時間の設問について、私の認識が間違っておりました。設問を読ませていただきます。学校の授業時間以外に普段、月から金曜日 1日当たりどれぐらいの時間勉強をしていますかという質問になっていて、但し書きとして、学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わった時間、インターネットを活用した学習時間等を含むとあります。

高木教育委員： 塾や家庭教師による勉強時間を含むということで、ここが大きなポイントであり、この数字を見ただけではなかなか判断が難しいと思います。

また、学校で部活をしっかりとやった後に自宅へ帰ってきて、2時間以上勉強をするということはなかなか大変なことだと思います。それでも2時間以上勉強しているという人はすごいことであり、素晴らしい子どもたちだと思うのですが、岡谷市は部活に一生懸命取り組んでいる生徒が多いのではないかと思います。勉強時間については家庭において、自分で勉強しているのか、家庭教師などに教わっているのか、この辺りを見ていかないと実態は見えてこないと思います。

小平教育委員： 子どもたちの授業を何度か見学して、先生方が皆さん大変優秀で、特に教え方の研究がすごくなされていることを感じました。それが小学校のお子さんたちの成績に繋がっていること、また社会とつながる岡谷スタンダードカリキュラムの取り組みの効果が出ていると感じました。

中学校は部活動と勉強時間の関係や地域と関わる時間がなかなか作れない環境など、原因はいろいろ考えられますが、私自身、子育てした経験から、中学生は精神面で反抗期等を迎えて、先生だけでなく、親もコントロールが出来ない時期でしたので、全国平均にあるのはすごいなと思います。これで良いというわけではないですが、いろいろと難しい時期なので、先生方も大変だと思います。

岡谷スタンダードカリキュラムの社会的な学習について、思春期を迎える中学生の頃に、外部の講師等を迎えて、社会とつながりを持たせる意味でやってみるのは良いと思います。親や先生以外の社会から学ぶことはけっこうあると思います。規制された環境から逃げ出したいくなる時期でもあるので、自分の目標を見つけるという意味で社会とつながれる岡谷スタンダードカリキュラムを実践することで良い成果が出ると思います。

高木教育委員： 細かいことで申し訳ありません。資料No.1-②の裏面の「伸びる おかやの子」の設問はわかりやすくとても参考になるのですが、設問 **4** (1) の答えがどこにもないので、紙面のスペースの問題であると思いますが、お子さんと一緒に問題に挑戦するとありますので、答えを入れていただいた方が良いでしょう。

太田教育委員： 資料No.1-②の「おかやの子のすがた」のよいところと課題のところですが、よいところに「将来の夢や目標を持って前向きに生活し、意欲的に学習に取り組んでいる」と小学校も中学校もこれに該当しており、これはすごく良いことだと思います。それで授業が面白くて、学校の授業に集中していれば、家に帰って勉強しなくてもかまわないと個人的には思っています。ここが非常にいいところだと思う反面、課題のところ、自分で計画を立てて学習（予習や復習）に取り組める子が少ないということにも小学校、中学校ともに該当していて、相矛盾するような気がするのですが、この辺はどのように捉えればいいのか、教えてください。

事務局（瀨）：　そうですね。これまでの家庭学習では、宿題の出し方が「これをやりなさい」という内容のものが比較的多く、反復練習の意味合いでやるものが多かったと思います。ただし、自分で計画を立てて学習をしているという回答も増加傾向にありますので、学校での家庭学習、宿題の出し方等を工夫して、授業と家庭学習がうまくリンクするように取り組んでいるところだと思しますので、そのあたりも状況をさらに掴んでいきたいと思します。

藤森教育委員：　資料No.1-②おかやの子のすがたで、「岡谷の子のよいところ」で6つ項目が挙げられておりますが、この項目どおりの設問があつて、それに対して、「はい」、「いいえ」で答えた結果、「はい」が多かったということによろしいですか。そういった具体的な設問ではなくて、自由項目に回答したらこういう傾向が出るということじゃないですよ。

事務局（瀨）：　はい。例えば、資料No.1-②の岡谷の子のよいところにある「朝食、起床・睡眠時刻等の基本的生活習慣が身につけている」について、設問は具体的にどうなっているかをご紹介しますと、

「朝食を毎日食べていますか。」

「毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。」

「毎日同じくらいの時刻に起きていますか。」

という複数ある設問を組み合わせ、このような考察をさせていただきました。多くの設問では、4段階で答える形式になっており、

「している。」

「どちらかと言えば、している。」

「あまりしていない。」

「まったくしていない。」の回答の中から答えることになっています。

藤森教育委員：　4段階の回答から総合的に考察して、このような傾向になっているということですね。よくわかりました。

岩本教育長：　それぞれ、教育委員の皆様から貴重なご意見いただきました。小学生と中学生の学力の伸びについて、課題として挙げていただきましたが、私も教育長になって、そこが一つ岡谷市の大きな課題と捉えています。

いかに中学校では小学校の学びを基盤にして、それをさらに伸ばしていくかが大切になってくると思します。

具体的なお話をすると中学校の授業改善はかなり進んできています。先生方の意識がまず変わってきているのも事実です。教育委員の皆さんも中学の授業を見ていただき、今までは先生方がただ教科書を読みながら、やっていた授業から、ここにあるようなIT機器を駆使して子どもたちに興味・関心を持ってもらいながら、わかりやすく丁寧な授業をしている姿が見えてきています。ただし、授業改善がすぐ子どもたちに還元されるかというところが難しいところですね。

岩本教育長：

中学校については、思春期を迎えて、小学校の時よりも家庭環境や友人関係など、いろいろな環境の中で一生懸命子どもたちは生きているわけで、その中で学びは学力だけでは言い尽くせないところがあります。今回テストを受けた中学3年生は、小学校6年生の時に受けた学力調査の結果が平均点よりほんの1点多かった子ども達でした。

つまり、今年の6年生とは少し違う状況になります。しかも、その時の母集団の上位生の20名近くが市外の中学校へ出て行っているわけですから、そういうことを考えた時に今回の結果は妥当なものだと思います。

平均正答率だけを見ると、良いか、悪いかで判断になるのは仕方のないことです。ただし、私たちは平均正答率の裏にあるその子たちのこれまでの状況を把握して、その上でいろんな判断をしております。

だから、簡単に小学校と中学校を比べて、どうして中学校が低いのかというのは少し乱暴すぎます。これは教育委員の皆様にはっきりお伝えしたいところでもあります。

ただし、重々その課題については承知しており、ご指摘の通りだと思います。あれだけ小学校で良い点数を取ったのだから、もっと中学校も伸びてもいいじゃないか、このように考えるのは当たり前ですよね。それはこれから学校の先生方と一緒にあって真剣に取り組んでいきたいと思えます。

それから小学校でも実は各校によって、点数のバラつきというものが当然あります。今回も学力の結果が残念だったという学校がありましたが、私はその学年を小学1年生の頃から知っているのですが、よくどこまで来たなと思いました。平均正答率は上がっていない、むしろ下でしたが、1年生の時のあの教室で子どもたちの様子を見ていて、これで授業ができるのかなというような状況の中から、先生たちや子どもたちが一緒になって努力して、ここで学年を卒業しようとしているわけですので、よくここまで来たな、ここまで頑張ってくれたなと私は称賛をおくりたいと思えます。

平均正答率で一喜一憂するのではなく、さらに単純比較するというのは非常に危険すぎる。せっかく一生懸命やっている、一生懸命やってもどうですか、皆さんも一生懸命やっても点が取れない時もあるでしょう。点が取れる方がそれは良いことですが、得手不得手がある。学年によっても非常にいろいろな差がある。でも、逆にその学年では運動がとってもいい、音楽に秀でているなど、他のことをやった時には特別な良さがいっぱいある。中学校でもそれぞれの学校に特色があって、今回はこの学力調査の結果が残念ながら良くなかったが、とっても素晴らしい3年生だということもある。私たちは総合的に考えて、これは一つの指標として大事な指標であり、事実として受け止めます。ただし、簡単にその学校の授業はどうなのかということとは言えないということをご承知いただきたいと思えます。

岩本教育長： さて、今いただいた意見と照らし合わせて、その上で今後公表していきたいと思いますが、内容としてはこのような形で公表してまいりたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<異議なし>

はい、ありがとうございます。

それでは、先ほどお話した全国学力・学習状況調査の結果を十分に今後の指導あるいは授業改善に活かしていくということで進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、次に議題の2に入りたいと思います。

議題の2、「通学路の安全対策について」を議題とします。

事務局から説明をお願いいたします。

2. 通学路の安全対策について（教育総務課）

<資料2に基づき、事務局より説明>

岩本教育長： 今説明がありましたが、ご質問ご意見ございましたらお願いいたします。

太田教育委員： 今回は文科省からの通知に基づいて、緊急合同点検をして、その内容をまとめ、今回国へ提出することになりますよね。その後、報告内容を基に、国の国交省で対策を実施するといった判断がなされるという流れでしょうか。

事務局（両角）： 対策を実施するのは道路管理者である市町村、国、県と教育委員会です。国が対策の判定をするということは一切ございません。

それから、安全対策に係る国の特定財源というのは、今のプログラムもそうですが、交通安全対策の特別交付金という財源が各市町村に交付されており、今回の安全対策もそのような財源を活用して行っていくという流れになります。今回は緊急ということで、国がまず把握をする。次のステップは、市で既にこのような安全対策の見通しを立てていますので、その予算の措置を行うことになります。予算は、3年間のローリング計画ということになりますので、今回53箇所の安全対策のうち、市道に係わる箇所工程をはめていくと、1年目はここ、2年目にはここをやりますという形で見通しを立てて、令和4年度には改めて予算要求をして、実行していくという流れになります。

国の動きはこれで前倒して実施していきますが、市の通学路交通安全プログラムはもう一度最終的に計画を策定して、2月か3月の定例教育委員会で第4次通学路交通安全プログラムとして、計画の決定をしていただく予定となっております。

草間職務代理者： 質問いいですか。根本的な対策としては安全な通学路への変更が考えられます。ただし、今の通学路を変更するとなると変更までに時間がかかるので、そうすると今の通学路を整備していくこととドライバーにスピードを抑えてもらうということになると思います。

草間職務代理者： 今、子どもたちの安全教室はコロナ禍でもやっていますよね。例えば、信号を渡る時に手を挙げて渡りますが、4～5年前は1年生から6年生まで必ず手を挙げて渡るよう徹底していましたが、最近はあまり一斉に手を挙げるといのは見られなくなってきているので、ぜひ安全教室の中で徹底していただくことが大事だと思います。

また、グリーンベルトをせっかく作っていただきましたが、グリーンベルトを歩かないで全然違うところを歩いているというのを見かけます。さらに、最近信号のない交差点を渡るときに子どもが手を挙げて車が停まる時、子どもたちが横断歩道を渡りきると、今までは子ども達がドライバーにお礼をしていました。通勤時間帯ですので、毎日ドライバーも同じ道を通っていて、通学路に近づけば、そこは徐行すべき場所、子どもが手を挙げれば、停まろうという習慣が出来ていると思います。

最近そういう姿がなくなってきているので、もう一度学校の安全教室で指導していただきたいと思います。

事務局（両角）： 抜本的な改良とは全ての道に歩道が出来ることだと思いますが、それには限界はあります。具体的な場所を挙げると川岸地区の下辰野線。岡谷駅から西部中、川岸小学校までは歩道が両方に整備されて、素晴らしい道になっています。その歩道を子どもが歩いていて、安全が確保されています。

その先の歩道も整備されれば、安全になりますが、なかなか難しい。個人の財産を取得して、道路を拡幅していくということで、そういう部分は県としても計画に位置付けて、拡幅改良していくことにはなりますが、当然すぐにはできません。市としては、早期整備を望んで、要望活動を積極的にやっていくことにはなります。

それから今のコロナ禍という状況で、外部から学校に人を呼ぶということが難しく、いろいろと制約があった2年間になってしまいました。安全教室も以前のような内容を充実して実施することができない状況だったと思いますが、今後も安全対策には力を入れていかなければならないと思います。

子どもたちの挨拶の話については、今朝、私も横断歩道の前で停まったのですが、しっかり子ども達がお礼をしていましたので、決して、できなくなったということではないと思います。今後もきちんとお礼をするという取り組みを各学校で共有していきたいと思います。

藤森教育委員： 今回53箇所について、事細かに学校区ごとにまとめていただきまして、ありがとうございます。その中で、まだまだ通学路の危険箇所については潜在的に存在すると思いますので、そういったところをいかに抽出して挙げていくかということが大事だと感じています。

資料No.2-②で学校ごとにまとめた危険箇所について、抽出理由というものが4項目あります。要するに、1番から3番目までの理由というのは資料No.2-③の「要請の観点」でいうところの「全国一律の観点」だと思います。資料をそれぞれ拝見すると、ほとんどが3番の「保護者、見守り

藤森教育委員： 活動者、地域住民等からの改善要請」になっております。やはり、その場所に普段からいる方がここは危ないですよという形で上がってきて、その情報をまとめてきたのだと思います。

その中で、抽出理由の4番に「上記以外の従来の観点で把握している危険箇所に該当するため」というのは市が以前から把握している危険箇所であると思うのですが、どんな観点で抽出された危険箇所なのでしょう。これはどのように把握されているのでしょうか。

事務局（両角）： 毎年、小学校ごとに学校の周辺にある危険箇所マップというものを作っております。保護者や先生方たちがどこに危険な場所があるかを把握して、自分たちで図面を作成するものになります。

そのような確認をしていただく中で、ここは3年に1度になるので、テーマではないですが、危ないという場所を学校に報告していただいていますので、緊急の部分がなくても、学校において把握しております。

藤森教育委員： 学校で点検をしているということですね。大切なことだと思いますので、引き続き、よろしくお願いします。

岩本教育長： 他にはよろしいでしょうか。子どもたちの命を守るというのが何よりも大事であり、出来る限りの手を尽くすということが重要だと思います。

教育委員の皆さんも日ごろから子ども達の歩く道を見ていただいて、ここは特に危ないなというところがあったらぜひ教えていただきたいと思えます。先ほど、草間職務代理さんから大事なことをご指摘いただきましたが、自分で自分の身を守ることと同時に交通安全のマナーをしっかり教えてあげること、これは大人になっても大事なことです。みんなが交通安全マナーを守るのは当たり前という雰囲気になってくれば、交通事故も減っていくと思えますので、学校のやるべきこととして、そういったマナーというものをしっかり指導する時間を取りたいと思えます。

安全教室がまた再開されるようになれば、さらに専門家からいろいろなことを学べると思えます。今できることを精一杯やってまいりたいと思えます。

それでは、ただいま、報告させていただいた内容を国へ報告するということでよろしいでしょうか。

＜異議なし＞

はい、ありがとうございます。本日の議題は以上となります。引き続き、報告事項へ進みたいと思えます。本日は4件報告がございました。

○報告事項

1. 岡谷市教育委員会点検・評価報告書（教育総務課）

＜資料3に基づき、事務局より説明＞

- 岩本教育長：** ただ今の説明について、何か質問や意見がありましたらお願いします。
- 草間職務代理者：** 今年はコロナ禍の2年目ということで苦労しながら、事業内容について、大変工夫されているのですが、白上部長にお聞きしたいのですが、12月議会に向け、来年度の事業計画というものを作成していくと思うのですが、コロナの影響を加味した事業計画を立てられるわけですか。それとも、もうコロナの収束を想定して事業計画を立てられるのか。
- 白上教育部長：** コロナの収束を想定しながらになります。現在、大分落ち着いてきている状況にあり、これから安全を確保しながら、行事等を元に戻して、しっかりやっていけるような方向性で今のところは考えていきたいと思っています。その中で状況が変わってくれば、それに対応するような形で多少なりの方法転換を考えなければいけないと思いますが、できることをやっていくという方向で進めていきたいと思っています。
- 草間職務代理者：** コロナ禍によって2年間全くできなかった事業というものがあるので、4月に落ち着いたならそこからすぐにスタートできるような計画を立て、コロナが収束していなければ仕方ありませんが、収束していればスタートダッシュができるような事業計画を立てていただきたいと思っています。
- 白上教育部長：** 事業内容によっては、コロナ前の状況でやっていけるものもありますし、ある程度の感染症対策を取りながらやっていかなければいけない事業も出てくると思いますので、そういったことを考えながら進めていきたいと思っています。
- 岩本教育長：** ほかに何か質問や意見がありましたらお願いします。
- 高木教育委員：** 教育総務課の事業を拝見すると、事業費が掲載されているものと掲載されていないものがありますが、何か違いがありますか。
- 事務局（両角）：** 特に明確な決まりというのはありません。現在、事業別予算というものを編成していますので、予算がかかるものについては掲載しておりますが、予算でとらえられないもの、例えばマンパワーでやっている事業に対しては事業費が表示されておりませんが、予算を把握できる事業については、その費用を記載しております。
- 高木教育委員：** ふるさと岡谷に学ぶ学習の推進事業について、岡谷スタンダードカリキュラムを各学校で先生方に実践していただいております。各学校を訪問すると、廊下などにカリキュラムで実践したものが展示してあって、先生方が取り組んでくださっているのが分かるのですが、実際にどのようなことに取り組んで、それに対して各学校でどのように評価しているのか、本日でなくてよいのですが、また教えていただきたいと思っています。

事務局（両角）： 令和2年度は前任の竹内先生に取り組んでいただきましたが、次回の定例教育委員会でまとめをお示しできればと思っています。

岩本教育長： よろしいでしょうか。それでは、つづきまして、報告事項2「令和3年度成人式について」、事務局より説明をお願いします。

2. 令和3年度成人式について（生涯学習課）

事務局（伊藤）： 資料等は特にございませんで、口頭で説明させていただきます。

令和3年度の成人式については、新型コロナウイルス感染症の全国的な状況を考慮しながらの検討になるかと思いますが、例年通り、成人の日の前日であります令和4年1月9日の日曜日に開催する予定で準備を進めたいと考えています。

現時点で考えている対策は、時間の短縮や3密の回避など、参加される皆さんの安全確保を最優先にして実施できる方法を検討しています。

また、人を集めること自体ができなくなった場合のことも考えて、今年5月に開催しました成人の式での経験を生かしたライブ配信等の実施方法も一つの案として、並行して検討したいと考えています。

なお、該当者への通知や広報への掲載は、11月初旬を予定しています。

教育委員の皆さんについては、当日ご参加いただくということで、ご協力いただくことになるかと思いますが、新成人の門出を祝う素晴らしい式になりますよう、力添えのほどをよろしくお願いいたします。

詳細が決まりましたら、またこの場でお話させていただきたいと思います。その際には資料も配布させていただきたいと思います。

岩本教育長： ただ今の説明について、何か質問や意見がありましたらお願いします。よろしいでしょうか。それでは、報告事項3「令和3年度 子ども・若者育成支援強調月間における街頭啓発の代替案について」、事務局より説明をお願いします。

3. 令和3年度「子ども・若者育成支援強調月間」における街頭啓発の代替案について

（生涯学習課）

事務局（伊藤）： こちらも資料はございませんので、口頭で説明させていただきます。

例年、岡谷駅前や中学校、高校の校門で挨拶の声かけや啓発物品の配布等をしておりました。11月に行っていた街頭啓発ですが、今年度も昨年度と同様、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止といたしたいと考えています。

子ども・若者の問題に関心を寄せて、地域ぐるみでよりよい社会環境にするための活動の一つである啓発活動ができないことは非常に残念です。

教育委員の皆さんには早朝より各学校に足を運んでいただき、啓発活動にご協力いただき、大変ありがたいと思っていますが、事情をくみ取っていただき、ご理解いただけますようお願いいたします。

事務局(伊藤)： なお、街頭啓発に代わる取り組みについては、昨年度実施しました駅前の桃太郎旗の設置や学校を通じて啓発物品を配布することに加えて、今年度はシルキーチャンネルで街頭啓発に代わる番組を放映したいと考えております。

11月初旬の放映に向けて、現在企画製作に取り組んでおりますのでぜひご覧いただきますようお願いいたします。また新聞報道等で周知したいと思いますので、よろしく申し上げます。以上となります。

岩本教育長： 楽しみにしております。この件もよろしいでしょうか。

それでは、つづいて、報告事項4「令和3年9月定例会の議案について」、事務局より説明をお願いします。

4. 令和3年9月定例会の議案について

(各課)

白上教育部長： 私からは10月4日に閉会いたしました令和3年9月定例会において、承認また議決されました教育委員会関連のご報告案件及び議案についてご報告をさせていただきます。

1点目ですが、令和元年度に市内中学校の八ヶ岳登山にて発生した事故につきまして、7月19日に和解が成立した件をご報告したものになります。これまでも学校教育活動の安全確保に努めてまいりましたが、この事故を受け、各校の教育活動に対する安全意識をさらに高めて事故防止に努めてまいりたいと思います。

2点目ですが、令和3年8月の豪雨により、やまびこ国際スケートセンターの裏の法面の一部が崩落したことに伴う修繕工事でございます。400メートルリンクの西側斜面において、小規模な崩落が見られましたが、崩落防止の対策が元々とられており、大きな崩落の危険性はないものと考えています。冬季に向け、利用が増える前に安全性を確保するというところで、補正予算により復旧工事を実施するというもので、実際に工事は二日ほどで済み、現在は修復が済んでいます。

3点目ですが、新型コロナウイルス感染症対策事業として、補正予算により、図書館のキッズコーナーの床のカーペットの張りかえやベンチ書棚の抗菌仕様補修、入館時の検温のためのサーモグラフィカメラの整備を行うというもので、図書館を安全安心にご利用いただくために徹底した感染防止対策を行ったものになります。

4点目ですが、新型コロナウイルス感染症対策事業として、スポーツ施設のトイレの洗面所の手洗いの自動水洗化工事になります。市民総合体育館、市民水泳プール及びやまびこ国際スケートセンターのトイレ洗面所の手洗い水栓32ヶ所を自動水洗化しまして、感染防止を図るものになります。

以上、令和3年9月定例会に関する報告になります。よろしく申し上げます。

岩本教育長： 　ただ今の説明について、何か質問や意見がありましたらお願いします。
よろしいでしょうか。それでは、報告事項については以上となります。
　続いて、「その他」ということで、行事予定について、事務局より願
いします。

○その他

・行事等について（各課）

＜各課より行事予定について説明＞

岩本教育長： 　さて、事務局より説明がありましたが、何か、ご質問等ございますか。
よろしいでしょうか。それでは以上となります。このほか、教育委員さん
から何か報告事項があればお願いします。

　それでは、事務局より次回の開催予定についてお願いします。

事務局（両角）： 　次回の定例教育委員会は、11月8日（月） 9時30分～ 岡谷市役所
202会議室で予定していますので、よろしくをお願いします。

岩本教育長： 　この後、せっかくですので、子ども達の一生懸命授業に取り組んでいる
姿を静かに廊下から見学した後、1階の応接室にて、教育委員協議会を開
催しますので、よろしくお願ひいたします。

　それでは、以上を持ちまして、本日の会議を終了とします。お疲れ様で
した。

11時15分 終了

岡谷市教育委員会会議規則第23条により署名する。

令和 3年 11月 8日

教 育 長 岩本博行

署 名 委 員 小 平 陽 子

署 名 委 員 草 間 吉 幸

調 製 職 員 白 上 淳